

保護者等からの事業所評価の集計結果

公表			
事業所名	てらびあぽけっと板橋本町教室		
公表日	2026年	3月	20日
利用児童数	50人	回収数	36人

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	33件	3件			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	34件	2件			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	31件	4件		1件	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	36件				
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	32件	3件		1件	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	33件	1件		2件	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	32件	3件		1件	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	31件	3件		2件	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	34件	1件		1件	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	35件			1件	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	14件	5件	8件	9件	
保護者 への 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	36件				
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	36件				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	35件		1件		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	35件	1件			・対面もあると嬉しいです。 貴重なご意見ありがとうございます。検討させていただきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	33件	1件	1件	1件	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	34件	2件			
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12件	3件	11件	10件	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	34件	1件		1件	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	36件				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	17件	6件	3件	10件	
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	34件	1件		1件		
非常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	22件	2件	2件	10件	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17件	2件	1件	16件	
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	30件	3件		3件	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	24件	5件		7件	・事故等が起きたことないので 今後とも、一切無事故の運営を努めていきます。

満足度	27	ごどもは安心感をもって通所していますか。	35件	1件				
	28	ごどもは通所を楽しみにしていますか。	33件	3件			<ul style="list-style-type: none"> ・発表を嫌がって泣いています。 ・前日から行くのを楽しみにしています。 	ご意見ありがとうございます。今後とも成長に必要な楽しんで学んでもらえるように工夫しながらプログラム提供していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	35件	1件			<ul style="list-style-type: none"> ・いつも楽しく通所しており、とても安心しています。 ・平仮名が書けるようになり、ご指導していただき感謝しております。 	ありがとうございます。今後も、きちんと結果がでる療育に拘りながら、楽しくきちんと学ぶを。を努めていきます。

事業所における自己評価結果

公表						
事業所名		てらびあぼけっと板橋本町教室				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6件		条例で定められている設備基準を遵守している。	事故のないように細心の注意を払う。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6件		定められている配置基準を守っている。	基準よりも多く配置するようにする。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6件		一部段差があるところもあるがほぼバリアフリー化している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6件		感染症対策のため、こまめな換気と湿度を上げる努力をしている。	建物の構造上、なかなか湿度が上がらない。複数台の加湿器を使用し、できるだけ上げるようにしていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6件		個室が3つ常設してある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6件			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6件			保護者が気軽に質問や相談が出来るような雰囲気作りをしていく。
	8	職員の意見を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6件		定期的にかンファレンスを行っている。	ミーティング時、不在の職員にもしっかり共有出来るようにする。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4件	2件		第三者評価制度の利用はないが、定期的に自己及び本部の内部監査を通じてチェック及び向上を図っている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6件		本部主催のセミナーなど、職員の出席を積極的に促している。	本部主催のセミナーなど、職員の出席を積極的に促していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6件			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6件		入所時、更新時に支援計画書を作成している。フィードバック相談支援などを通してリアルタイムなお困りごとを共有し、支援計画に反映させている。	引き続き利用者の特性を理解し、保護者と相談しながらきめ細かい支援計画を立てていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6件		児童発達管理責任者と指導員とでモニタリングを行っている。	モニタリング時期以外でも気づいた事があれば都度共有を行う。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6件			漏れがないように丁寧に説明し職員に理解してもらう。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6件			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6件		各利用者の発達状況と保護者の要望に沿った支援計画を立案している。	5領域を取り入れた分かりやすい支援計画を立てていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6件		小集団の活動は事前に職員で話し合ってから決めている。	誰が担当しても分かるように要望シートを作成し記録に残している
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6件		担当を固定化せず、複数の職員が介入している。	リアルタイムなお困り事など、どんな小さなことでもお手伝いできるということを積極的に周知していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6件			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6件		終礼時や朝の教材準備の際に支援内容について情報交換をしている。	今後も職員間での確認を行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6件		終礼の際に毎日必ずその日の振り返りを行い、職員全員で情報共有している。	終礼の際に毎日必ずその日の振り返りを行い、職員全員で情報共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6件			プログラムの内容を細かく記録し、誰が担当になっても今何をやってどんなことが必要なのか分かるようにしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しを判断し、適切な見直しを行っているか。	6件			
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5件	1件		要望があれば積極的に参加する。	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4件	2件		要望があれば連携して支援を行う。	
26	併利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5件	1件		電話での共有、また園の先生が見学に来た際に共有を行っている。	利用者、園からの要望があれば対応している。

関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6件		保護者からの希望により、小学校に提出する「就学支援シート」に記載を行っている。	要望に応じて就学の際に必要な就学支援シートを作成し小学校と情報共有しているが今後は更に積極的にやっていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5件	1件	区主催のこども連絡会に毎回出席し、情報交換をしている。また、こども発達支援センターより、たくさん利用者をご紹介いただいている。	欠席なく毎年参加したい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2件	4件		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5件	1件		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6件		保護者向けの勉強会を定期的に開催している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6件		契約時に必ず行っている。	分かりやすい説明を心掛ける。
	保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6件		
37		「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6件		面談の機会を設けて説明を行っている。	
38		定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6件		フィードバック、電話、LINE、家族支援にてその都度対応している。	誰でも気軽に家族支援(相談支援)を利用できるように積極的に周知していく。
39		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2件	4件	教室の運営形態上、開催は難しい。	日曜日の開催など、実現に向けて検討を重ねていく。
40		こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6件			いつでも気軽に相談出来るように保護者に周知し相談しやすい環境を作っていく。
41		定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4件	2件		教室独自のHPがない。
42		個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6件			個人情報に対する意識を高めて取り扱っていく。
43		障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6件			常に言葉に気を付け、利用者・保護者の立場に立って配慮をしていく。
44		事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6件		
非常時等の対応		45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6件		各マニュアルを策定し定期的に訓練を行っている。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6件		BCPを策定している。定められた訓練を行っている。	訓練を通して各々が役割を把握しておく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6件			既往歴の確認は事前に行っている。漏れがないように職員間で声掛けを行っていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5件	1件	食事提供はないがアレルギーの有無については確認をしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6件			引き続き研修、訓練を行う。怪我だけでなく、利用者・職員共に感染症ゼロを目指す。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6件			安全計画等に変更があった場合は都度、周知出来るようにする。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6件			事故が起きないようにしっかりと職員間で声掛けを行っていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6件		定められている回数の研修を行っている。	引き続き研修を行い、職員の意識を高めていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6件		該当者がいないので、支援計画に記載した例がない。		

事業所における自己評価総括表

公表			
○事業所名	てらびあぼけつと板橋本町教室		
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 1日		～ 令和7年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50人	(回答者数) 36人
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 1日		～ 令和7年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づく丁寧な支援 → 子どもの特性を把握し、段階的に伸ばせる点 が強み。	「できた」見える化して自己肯定感を高める → シール、できたカード、振り返りなどで成功体験 を積ませる。	評価・アセスメントの標準化と支援の質の均一化 → 職員間で支援の視点を統一し、支援の再現性 を高める。
2	小集団活動と個別療育のバランス → 社会性と個別課題の両方に対応できる体制が 整っている。	活動を構造化して見通しを持たせる → スケジュール提示、視覚支援、ルールの明確 化を意図的に行う。	地域・関係機関(園・相談支援等)との連携強化 → 情報共有の仕組みを整え、支援が途切れない 体制づくりを進める。
3	保護者支援・家庭連携が手厚い → 保護者との情報共有が密で、家庭での困りご とも寄り添える。	就学を見据えたスキル練習を日常活動に組み込 む → 着席、聞く姿勢、指示理解、集団参加などを自 然な形で練習する。	職員研修の充実と専門性向上 → 発達特性理解、行動支援、感覚統合、就学支 援などを計画的に学ぶ。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	課題として、療育の質を上げる努力は続けていき たい。	課題に対して、アプローチをする際にパターン化し た療育にならないように注意が必要。	内部研修や外部研修、または自教室として新し い療育技法を学んでいき、お子様にとって、同じ 課題だとしても、どのやり方が一番合うのかを見 極めながら接していきたいです。
2	記録・評価が形式的になりやすい → 日々の支援記録はあるが、個別支援計画に十 分反映されていなかったり、成果が見えづらい。	情報共有の仕組みが弱い → ケース会議やミーティングが短時間になり、支 援方針の共有が不十分になる。	定期的なケース会議・振り返りの仕組み化 → カンファレンス以外にも短時間でも「毎週」「毎 月」など固定で行い、評価→計画→支援改善の 流れを作る。
3			